

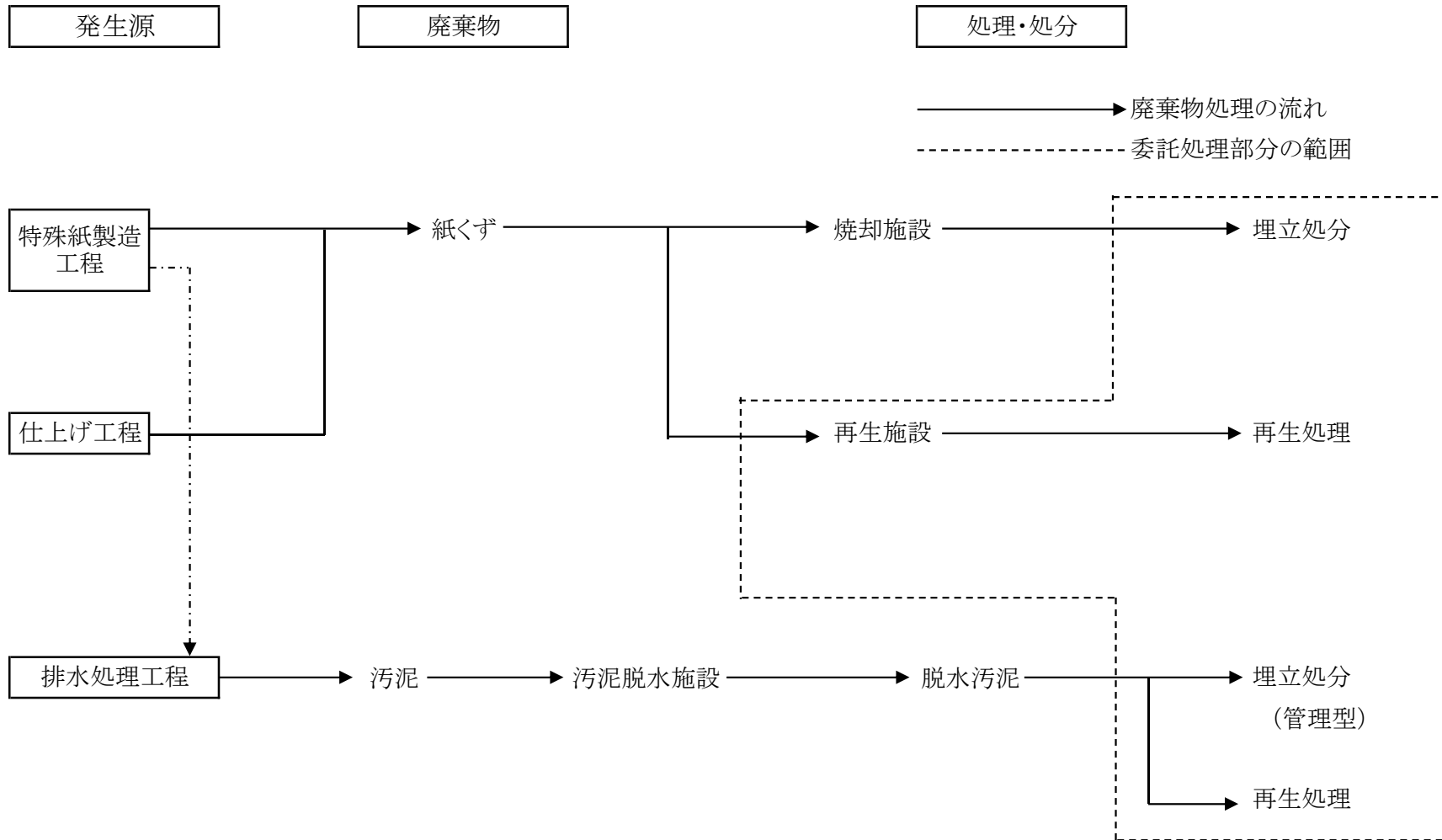
様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和 5年 6月 15日</p> <p>徳島県知事 後藤田 正純 殿</p> <p style="text-align: right;">提出者</p> <p style="text-align: right;">住所 徳島市南矢三町3丁目10-18</p> <p style="text-align: right;">氏名 阿波製紙株式会社</p> <p style="text-align: right;">取締役社長 三木 康弘</p> <p style="text-align: right;">（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）</p> <p style="text-align: right;">電話番号 088-631-8110</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量とその処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	阿波製紙株式会社 徳島工場
事業場の所在地	徳島市南矢三町3丁目10-18
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	14：パルプ・紙・紙加工品製造業
②事業の規模	前年度売上 133億円
③従業員数	210名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	「別紙」

第1面(別紙)

④産業廃棄物の一連の処理の工程



## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

「別紙」

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	紙くず
	排出量	1243 t	272 t
	(これまでに実施した取組) (汚泥) ・脱水処理方法を見直すことにより83.2%がリサイクル向けになった。 ・紙屑に関しては98.5%リサイクル向けになった。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	紙くず
	排出量	1230 t	269 t
	(今後実施する予定の取組) (汚泥・紙屑)  ・廃棄物量前年度比1%の削減。		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・汚泥、紙くず、廃プラ、くず鉄、焼却灰はそれぞれ分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・全従業員に周知し、分別を徹底する。

別紙(第2面関係)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	汚泥	紙くず	廃プラスチック		
排出量	1243 t	272 t	1.62 t		t

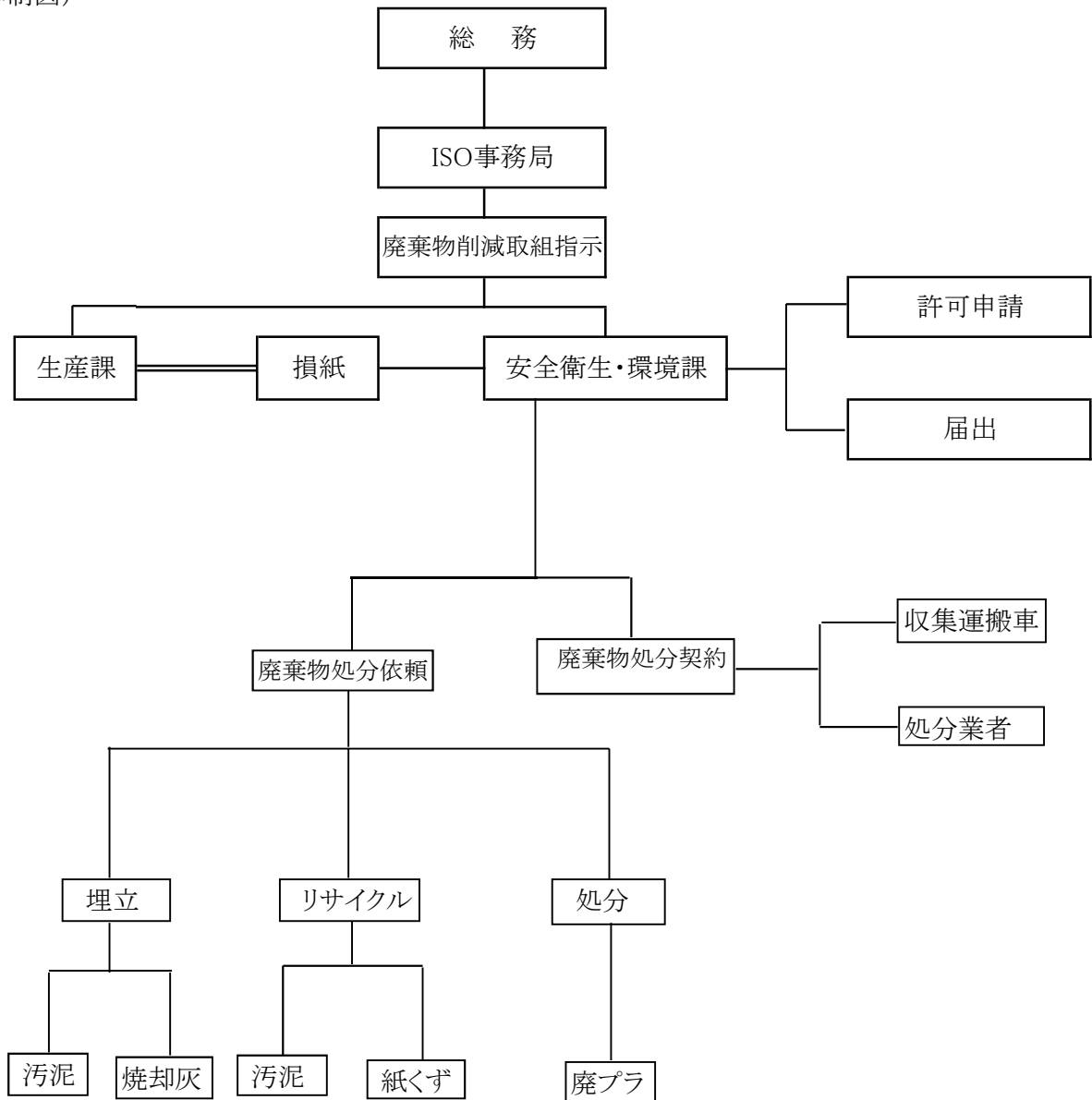
産業廃棄物の種類					
排出量	t	t	t		t

②計画

産業廃棄物の種類	汚泥	紙くず	廃プラスチック		
排出量	1230 t	269 t	1.6 t		t

産業廃棄物の種類					
排出量	t	t	t		t

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 (別紙)  
(管理体制図)



## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	40 t	t
	自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	36 t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	80 t	t
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の量	70 t	t
(今後実施する予定の取組)			
<p>焼却設備の有効活用で紙くずの減量を図っている。</p> <p>焼却量を増やし廃棄物削減を図る。 焼却日程を周知し焼却物の管理を効率的に行う。</p>			

別紙(第3面関係)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類				
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t

産業廃棄物の種類				
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t

②計画

産業廃棄物の種類				
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t

産業廃棄物の種類				
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	紙くず <sup>※</sup>			
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	40 t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	36 t	t	t	t

産業廃棄物の種類				
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t

②計画

産業廃棄物の種類	紙くず <sup>※</sup>			
自ら熱回収により減量する産業廃棄物の量	80 t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	70 t	t	t	t

産業廃棄物の種類				
自ら熱回収により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	紙くず
	全処理委託量	1,243 t	272 t
	優良認定処理業者への処理委託量	119 t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,038 t	268 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	86 t	4 t
	(これまでに実施した取組)  (汚泥) ・再生利用業者へ廃棄物の処理委託量を増やした。 前年度 汚泥 86% 今年度84%で2%減。 紙くず 99% 再生処理委託できた。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

産業廃棄物の種類	廃プラスチック				
全処理委託量	1.62 t	t	t	t	t
優良認定 処理業者 への処理 委託量	1.62 t	t	t	t	t
再生利用 業者への 処理委 託量	t	t	t	t	t
認定熱回 収業者 への処理 委託量	t	t	t	t	t
認定熱回 収業者以 外の熱回 収を行う 業者 への処理 委託量	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類					
全処理委託量	t	t	t	t	t
優良認定 処理業者 への処理 委託量	t	t	t	t	t
再生利用 業者への 処理委 託量	t	t	t	t	t
認定熱回 収業者 への処理 委託量	t	t	t	t	t
認定熱回 収業者以 外の熱回 収を行う 業者 への処理 委託量	t	t	t	t	t



②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	紙くず
	全処理委託量	1,230 t	269 t
	優良認定処理業者への処理委託量	71 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	1,058 t	259 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	100 t	10 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>(汚泥)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生利用業者の処理委託量を増やす。</li> </ul> <p>(紙くず)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>焼却処分量を増やし紙くず委託量を減らす。</li> <li>焼却処分できない紙くずは100%再生業者へ委託す</li> </ul>		
※事務処理欄			

別紙(第5面関係)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

②計画

産業廃棄物の種類	廃プラスチック			
全処理委託量	1.6 t	t	t	t
優良認定 処理業者 再生利用 業者への 認定熱回 収業者 への処理 委託量	1.6 t	t	t	t
再生利用 業者への 処理委 託量	t	t	t	t
認定熱回 収業者 への処理 委託量	t	t	t	t
認定熱回 収業者以 外の熱回 収を行う 業者 への処理 委託量	t	t	t	t

産業廃棄物の種類				
全処理委託量	t	t	t	t
優良認定 処理業者 への処理 委託量	t	t	t	t
再生利用 業者への 処理委 託量	t	t	t	t
認定熱回 収業者 への処理 委託量	t	t	t	t
認定熱回 収業者以 外の熱回 収を行う 業者 への処理 委託量	t	t	t	t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。